

鶴田町農事普及だより

（6月号 令和7年6月1日～6月30日）



〈発行〉鶴田町／鶴田町農業支援センター／鶴田町農業振興課
つがるにしきた農業協同組合鶴翔統括支店
西北農林水産事務所農業普及振興室

水田活用の直接支払交付金に係る5年水張りルールの変更について

水田活用の直接支払交付金において、令和4年度から令和8年度までに一度も水張りされない農地は交付対象外となる、5年水張りルールについて、国の方針転換により、対象となる取組に、「連作障害を回避する取組」が追加されました。

詳細は、鶴田町農業再生協議会（農業振興課 生産振興係）へお問い合わせください。

農業関連の各種補助事業を活用ください！

町では、農業関連の補助事業を実施しております。
申請方法等の詳細は、町ホームページをご覧ください。



詳しくはこちらから！

気象

（令和7年5月22日 仙台管区气象台発表
東北地方1か月予報より）

期間の前半は、天気は数日の周期で変わり、期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。
平均気温は、高い確率50％である。
降水量は、平年並みの確率が40％で、少ない確率・多い確率ともに30％である。

水稻

きめ細かな水管理で生育促進に努めよう！

1. 水管理

分げつ（茎数の増加）の適水温は、日最高で30～32℃、日最低で15～17℃、日較差15℃前後である。
日平均水温が19℃以下になると分げつの発生が急激に少なくなるため、昼間止水・夜間かんがいを基本とし、暖かい日は浅水で水温を上昇させ、寒い日は深水で保温する。また、漏水防止に努め、掛け流しはしない。

水田にガスが発生し生育が不良の場合は、6月中旬頃に3～5日程度（田面に小さなヒビが入る程度）の落水管理を行う。

有効茎数（1株茎数で「青天の霹靂」は18本程度、その他の品種は20本程度）を確保し、6月末頃から平均気温が20℃以上で晴天が続くようであれば中干しを行う。中干しは田面に軽く亀裂が入る程度とする。

■水管理の目安

生育期	暖かい日	寒い日
分げつ期	3 cm程度の浅水	5～6 cm程度の深水
有効茎数確保後	中干し	5～6 cm程度の深水

2. 雑草防除

(1) 初期除草剤と中・後期除草剤の体系処理の場合

初期除草剤処理後の雑草の発生を見ながら中・後期除草剤を選択する。

除草剤の散布後は、除草効果の維持と水質汚染防止のため、散布後7日間は止水し、落水や掛け流しをしない。

(2) 一発剤を使用し、残草が見られた場合（以下は、除草剤の例）

広葉雑草（アゼナ・ホタルイ等）のみ → バサグラン液剤・粒剤・エアー1キロ粒剤
又はグラスジンMナトリウム液剤

ノビエのみ → クリンチャー1キロ粒剤・EW
又はヒエクリーン1キロ粒剤
又はワンステージ1キロ粒剤

広葉雑草 + ノビエ → クリンチャーバスME液剤
又はワイドアタックSC
又はワイドパワー粒剤
又はヒエクリーンバサグラン粒剤

注）除草剤は使用基準を必ず守り、他の作物に飛散しないように注意する。

3. 病害虫防除

(1) イネミズソウムシ

移植前や移植時に防除をしなかった場合は、発生に応じて防除する。発生が多い場合は、6月上旬に水面施用剤を散布する。この時期の防除でイネドロオイムシも防除できる。

(2) 斑点米カメムシ類

カメムシの発生源となっている水田周辺の休耕田や、カメムシを誘引する畦畔の雑草（主にイネ科雑草）は、開花・結実する前に刈り取る。また、雑草の刈取りは水稻の出穂7日前までに終了する。

(3) 葉いもち

取り置き苗は、葉いもちの発生源となるので、補植が終わったら、直ちに処分する。

葉いもちは、早い年には6月下旬に発生が見られるので、ほ場をこまめにチェックし、病斑が見られた場合には、航空防除まで待つのではなく、直ちに防除する。

復元田や、いもち病に弱い品種を作付けした場合は、葉いもちの発生が見られなくても、水面施用剤による予防防除を必ず行う。

水面施用剤は、6月20日前後から6月末までに湛水のまま施用する。施用後1週間は止水し、落水、掛け流しをしない。その間の入水は、水尻を止めたままで行う。

※「青天の霹靂」は、農業の成分使用回数を地域慣行の½以内とすることが必須なので、農業の使用に際しては成分数を確認する。

畑作

大豆の雑草防除と中耕・培土をしっかりと行おう！

大豆

1. は種

碎土が粗いと発芽率が劣るので、碎土はていねいに行う。

は種量は「おすす」で7 kg / 10 a を基準とする。

は種直後の多雨は、出芽や初期生育の不良を招くので、気象情報に注意しながら作業する。

は種作業は6月10日頃までに終えるようにする。やむを得ず、は種が遅れる場合は畦幅や株間を詰めて、は種量を増やす。

2. 雑草対策

(1) 土壌処理剤

土壌処理剤は、は種後速やかな散布が望ましい。土壌表面の水分が少ないと効果が劣り、また、出芽した雑草には効果が劣ることがあるので注意する。

(2) 茎葉処理剤

イネ科雑草用の茎葉処理剤は、薬剤により効果が異なるので発生状況に合わせて選択し、効果的に使用する。

広葉雑草に使用できる茎葉処理薬剤は大豆バサグラン液剤やアタックショット乳剤、パワーガイザー液剤がある。以下の注意点を確認のうえ使用する。また、薬剤により使用時期が異なるため注意する。

薬 剤	薬害の助長を防ぐための注意点
大豆バサグラン液剤	●高温時や大豆の生育が不良な場合は使用を避ける。 ●重複散布を避ける。
アタックショット乳剤	●大豆の生育が不良な場合は使用を避ける。 ●重複散布を避ける。 ●他の茎葉処理剤（イネ科対象剤を含む）と混用しない。
パワーガイザー液剤	●大豆本葉1葉期以降の処理は薬害程度が大きく、収量に影響はないが、生育量を抑制し、大豆による遮光効果が遅延する。

(3) 除草剤の畦間処理

土壌処理、茎葉処理で残草が多い場合は、畦間処理の除草剤が利用できる。ただし、大豆に薬剤が飛散しないよう、専用ノズル、カバー等を使用する。

(4) 中耕・培土

1回目：本葉2～3葉期 初生葉のつけ根まで軽く土寄せする。
2回目：本葉5～6葉期 第1本葉のつけ根まで土寄せする。

りんご

良果を見極め、早期適正着果で高品質果実生産に努めよう！

腐らん病は見つけ次第、適切な処置を！

ふじ（板柳町五幾形）の落花日は平年より1日早い5月17日であった。摘果は果実形質を見極めながら進め、できるだけ早い仕上げで高品質果実の生産に努める。

■りんごの生育ステージ

		板柳町五幾形（月／日）					
品種名	区分	発芽日	展葉日	開花日	満開日	落花日	
ふじ	本年	4 / 7	4 / 16	5 / 5	5 / 12	5 / 17	
	平年	4 / 8	4 / 18	5 / 8	5 / 13	5 / 18	
	前年	4 / 4	4 / 12	4 / 27	5 / 3	5 / 9	
	平年比	1日早	2日早	3日早	1日早	1日早	
つがる	本年	4 / 6	4 / 19	5 / 5	5 / 12	5 / 16	
	平年	4 / 6	4 / 19	5 / 7	5 / 12	5 / 17	
	前年	4 / 2	4 / 12	4 / 27	5 / 2	5 / 8	
	平年比	並	並	2日早	並	1日早	
ジョナゴールド	本年	4 / 5	4 / 16	5 / 5	5 / 10	5 / 16	
	平年	4 / 4	4 / 15	5 / 6	5 / 11	5 / 16	
	前年	4 / 3	4 / 11	4 / 27	5 / 1	5 / 7	
	平年比	1日遅	1日遅	1日早	1日早	並	
王林	本年	4 / 6	4 / 16	5 / 4	5 / 9	5 / 14	
	平年	4 / 6	4 / 16	5 / 5	5 / 11	5 / 16	
	前年	4 / 4	4 / 12	4 / 26	4 / 30	5 / 5	
	平年比	並	並	1日早	2日早	2日早	

町農業委員会では、毎年6月上旬から農地の貸借や売買に関する相談を行っています。



1. 摘果

摘果が遅れると、玉伸びや果実品質、次年産の花芽形成にも影響を及ぼすので「早く」「強く」を心がけ、早期適正着果に努める。

自園地の結実状況や果実の障害の程度を確認し、万が一、結実量不足が懸念される場合は、サビや変形のある果実も残して、標準着果量を確保する。

2. 病害虫防除

薬剤散布に当たっては、散布間隔と基準散布量を守り、散布予定日に降雨が予想される場合は前倒しで散布する。

交信攪乱剤「コンフューザーR」の設置が終わっていない園地では、速やかに設置する。設置本数は10 a 当たり100本とし、園地に均一に設置する。

また、近年、発生が多く経過している腐らん病は、薬剤による防除に加え、病斑の適切な処置で感染拡大を防ぐ。

(1) 腐らん病対策

枝腐らんは、5～6月以降も発病してくるので、見つけ次第切り取り、適切に処分する。

胴腐らんは、処置が不十分であったり、誤った処置が行われている園地もみられるので、再発病斑を含め、次のいずれかの処置を適切に行う。

㊦ トップジンMオイルペーストを使う場合は、病患部を削り取り、薬液の浸透性を高めるために周囲の健全な表皮（上下約5 cm、左右2～3 cm）を薄く削ってから塗る。

㊦ フランカッスプレー又はパッチレートを使う場合は、周辺健全部を含めて病患部の上下約5 cm、左右2～3 cmを紡錘形にかつ切断面が直角になるよう削り取ってから薬剤を広く噴射又は塗布する。

㊦ 泥巻きを行う場合は、水を加えて団子状にこねた泥を、病斑部よりも5～6 cm広めに、3～5 cmの厚さで貼り付ける。さらにその上をビニール又はポリエチレンフィルムなどで被覆し、内部の泥の乾燥を防ぐようにして約1年間そのままにしておく。病斑部を軽く削り取ってから泥巻きを行うと一層効果的である。

㊦ 胴腐らんを発病が著しい樹は、伝染源になるので積極的に伐採する。

なお、処理方法については、青森県産業技術センターのYoutube公式チャンネルを参考にし、正しく実施する。

(2) 黒星病対策

殺菌剤無散布の県予察ほにおける葉の病斑は、平年より4日早い5月7日に確認されている。前年発生が見られなかった園地でも油断せず、自園地の状況を確認し、被害葉、被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

特産果樹

スチューベンの開花は平年よりやや早い6月15日頃と予想される！
摘梢は適期に行い、樹勢に応じた摘心を心がけよう！

ぶどう

スチューベン（鶴田町境）の展葉日は5月7日で、平年より2日早かった。

1. 新梢の誘引・結束

薬剤や日光の通りを良くするため、新梢は随時角度や間隔を調整しながら架線に誘引し、結束する。

2. 摘心（1回目）

1回目の摘心は開花7日前頃に行い、品種や樹勢に応じて強さを調整する。

品 種	摘心部	樹勢	副梢の取り扱い
ス チ ュ ー ベ ン	第1花穂の上位5枚	強・中	①すべての副梢をかき取り、その後発生した先端の副梢を1本残す ②上位1本の副梢を残し、下位はかき取る ※①か②を選択する
		弱	上位2本の副梢を残し、下位はかき取る
シャインマスカット	第1花穂の上位5枚		上位1本の副梢を残し、下位は1～2葉残して摘心する
キャンベル・アーリー	第1花穂の上位3～4枚		上位2本の副梢を残し、下位はかき取る
サニールージュ	第1花穂の上位5枚		上位1本の副梢を残し、下位はかき取る
ポートランド ナイアガラ	第1花穂の上位4～5枚		上位2本の副梢を残し、下位はかき取る

3. 花穂の整形

花穂整形時期は、開花5日前頃から1～2花咲き始める時が適期である。

スチューベン、ポートランド、ナイアガラでは、花穂の岐肩（通称：カタ）のみを除去する。

キャンベル・アーリーでは、花穂の岐肩、岐肩下の長い支梗や軸の間隔が広いものを除去し、さらに花穂の先端も軽く切り詰める。

シャインマスカットは、岐肩と上部支梗を除去し、花穂の先端3.5～4 cmを残す。花穂整形器を利用するとハサミに比べて整形作業時間が短縮される。

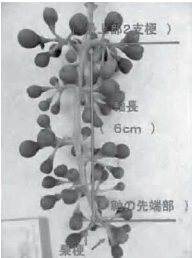
4. シャインマスカットの無核栽培

シャインマスカットの無核栽培では無種子化を確実にするため、ストレプトマイシン処理を行ってからジベレリン及びフルメット処理を行う。

- (1) **ストレプトマイシン処理**
満開予定日14日前～開花始期にストレプトマイシン200ppm溶液を花房に散布または浸漬する。
- (2) **ジベレリン及びフルメット処理**
 ㊦ **無核3回処理の場合（ジベレリンは2回処理）**
 1 回目は無種子化のために、満開時～満開3日後にジベレリン25ppm溶液に5ppmのフルメット液剤を加用した溶液に花房浸漬する。処理適期は、花穂先端まで花が咲ききったときである。
 2 回目は果粒肥大促進のために、満開10～15日後にジベレリン25ppm溶液に果房浸漬する。
- ㊧ **無核2回処理の場合（ジベレリンは1回処理）**
 満開3～5日後（落花期）に、ジベレリン25ppm溶液に10ppmのフルメット液剤を加用した溶液を花房浸漬する。

5. シャインマスカットの予備摘粒

- (1) **予備摘粒**
無核3回処理の2回目（ジベレリン25ppm＋フルメット液剤5ppm）処理日から5～7日後頃に、果房の軸長を6cmに調整する。その際、果房の内側（軸の方向）に向いた果粒を優先して摘粒し、小粒や障害果も摘粒する。軸長は、最上部2支梗（できるだけ対になるように残す）の基部から先端部（果梗は含めない）までの長さを計測して調整する（右図）。
- (2) **仕上げ摘粒**
最上部2支梗の果粒は上向きも含めて各4～5粒残し、これ以下の支梗の果粒は果房形、果粒の配置を整えるため、外向きの果粒が等間隔となるように摘粒する。仕上げ摘粒により着粒数は35～40粒程度とする。



6. 病害虫防除

■ 薬剤散布

〈スチューベン〉

散布時期 (10a当たり散布量)	基準薬剤名と倍数			
	殺菌剤		殺虫剤	
開花10日前 6月上旬 (250リットル)	アリエッティC水和剤 又はキノンドー水和剤40 又はチウラム剤※ 又はインダーフロアブル 又はオンリーワンフロアブル	800倍 600倍 1,000倍 8,000倍 2,000倍	ベストガード水溶剤 又はバダンSG水溶剤 又はアグロスリン水和剤 又はアディオフロアブル	1,000倍 1,500倍 2,000倍 1,500倍
開花直前 6月中旬 (250リットル)	アリエッティC水和剤 又はゲッター水和剤	800倍 1,500倍	ベストガード水溶剤 又はバダンSG水溶剤 又はジノテフラン剤※	1,000倍 1,500倍 2,000倍
落花直後 6月下旬 (250リットル)	ロブラール水和剤 又はポリベリン水和剤 又はスイッチ顆粒水和剤 又はフルピカフロアブル	1,500倍 1,000倍 2,000倍 2,000倍	アグロスリン水和剤 又はアディオフロアブル 又はジノテフラン剤※	2,000倍 1,500倍 2,000倍

※チウラム剤：チオノックフロアブル、トレノックスフロアブル
 ※ジノテフラン剤：スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤

注) 1 灰色かび病の発生が多い園地では、開花直前にゲッター水和剤を選択する。
 2 ペト病の発生が多い園地では、開花10日前にアリエッティC水和剤又はキノンドー水和剤40、開花直前にアリエッティC水和剤を選択し、落花直後にランマンフロアブル2,000倍又はライメイフロアブル4,000倍も使用する。
 3 黒とう病の発生が多い園地では、開花直前にアリエッティC水和剤、落花直後にポリベリン水和剤を選択する。

6～8月は「農業危害防止運動」実施期間です

農業の適正使用と隣接農地への飛散防止に十分気をつけましょう

○使用し残った農業などは、河川等へ絶対捨てないでください。

○農業を使用する場合には、必ず最新の「農業登録情報」を確認してください。

○農業は鍵のかかる専用の場所に保管し、管理を徹底しましょう。

登録品種に関する注意喚起

- 登録品種の種苗・収穫物等を利用するには、原則として権利者の許可が必要です。
 - 育成権者の許可を得ずに、自家採取した登録品種の種苗を近所の農家等に配布することは種苗法に違反します。
 - 他都道府県で開発された品種によっては、作付けできる都道府県が限定されている場合があります。
- 登録品種かどうかの確認は品種登録ホームページ（http://www.hinshu2.maff.go.jp）で行い、正規のルートで種苗を入手しましょう。
- 育成権者を侵害すると民事請求を受けたり、刑事罰を科される場合があります。

（農林水産省品種登録ホームページ）



【農業はぶどう園以外、他の作物、近隣の住宅等に飛散させない。】

〈シャインマスカット（露地栽培）〉				
散布時期 (10a当たり散布量)	基準薬剤名と倍数			
	殺菌剤		殺虫剤	
新梢伸長期 (約30cm) 6月上旬 (200リットル)	ジマンダイセン水和剤 又はポリオキシNAL水和剤 又はチウラム剤※ 又はインダーフロアブル 又はオンリーワンフロアブル	1,000倍 500倍 1,000倍 8,000倍 2,000倍		
開花10日前 6月中旬 (250リットル)	アリエッティC水和剤 又はキノンドー水和剤40	800倍 600倍	ベストガード水溶剤 又はバダンSG水溶剤 又はジノテフラン剤※	1,000倍 1,500倍 2,000倍
開花直前 6月下旬 (250リットル)	アリエッティC水和剤 又はゲッター水和剤	800倍 1,500倍	アグロスリン水和剤 又はアディオフロアブル 又はジノテフラン剤※	2,000倍 1,500倍 2,000倍
落花直後 7月上旬 (250リットル)	ロブラール水和剤 又はポリベリン水和剤 又はスイッチ顆粒水和剤 又はフルピカフロアブル	1,500倍 1,000倍 2,000倍 2,000倍	アグロスリン水和剤 又はアディオフロアブル 又はジノテフラン剤※	2,000倍 1,500倍 2,000倍

※チウラム剤：チオノックフロアブル、トレノックスフロアブル
 ※ジノテフラン剤：スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤

注) 1 新梢伸長期に、灰色かび病の多発が懸念される場合は、ポリオキシNAL水和剤、チウラム剤、インダーフロアブル、オンリーワンフロアブルのいずれかを選択し、新梢での被害を防止する。また、例年、灰色かび病の発生が多い園地では、開花直前にゲッター水和剤を選択する。
 2 ペト病の発生が多い園地では、新梢伸長期（約30cm）にジマンダイセン水和剤又はチウラム剤、開花直前にアリエッティC水和剤を選択し、落花直後にランマンフロアブル2,000倍又はライメイフロアブル4,000倍も使用する。
 3 黒とう病の発生が多い園地では、新梢伸長期（約30cm）にジマンダイセン水和剤又はチウラム剤、インダーフロアブル、オンリーワンフロアブルのいずれか、開花直前にアリエッティC水和剤、落花直後にポリベリン水和剤を選択する。
 4 晩腐病の発生が多い園地では、落花直後にポリベリン水和剤又はスイッチ顆粒水和剤を選択する。

おとう

佐藤錦（鶴田町菖蒲川）の満開日は5月4日で平年並であり、落花生は5月14日で平年より1日早かった。

満開日が平年並だったことから、収穫時期は平年並と予想される！
適期管理と適期防除で品質向上に努めよう！

1. 裂果防止対策

雨よけハウスの被覆は着色した果実が見え始めた頃に行い、裂果防止に努める。

2. 着色管理

葉摘みは果実の着色がある程度進んだ頃（おおむね収穫予定の7～10日前頃）から行い、果実に直接かぶさっている葉を軽く摘み取る。過度の葉摘みは果実品質を低下させたり、翌年の花芽の充実不足、樹勢の低下を招くおそれがあるので、**摘み取る量は最小限にとどめる**。

3. 病害虫防除

■ 薬剤散布

散布時期 (10a当たり散布量)	基準薬剤名と倍数			
	殺菌剤		殺虫剤	
満開35日後 6月上旬 (500リットル)	アミスター10フロアブル 又はファンタジスタ顆粒水和剤 又はナリアWDG 又はアンビルフロアブル 又はオンリーワンフロアブル	1,000倍 3,000倍 2,000倍 1,000倍 2,000倍	テルスターフロアブル 又はエクシレルSE 又はテッパン液剤	4,000倍 2,500倍 2,000倍
収穫前 【佐藤錦】 6月中～下旬 (500リットル)	アミスター10フロアブル 又はナリアWDG 又はインダーフロアブル 又はオンリーワンフロアブル	1,000倍 2,000倍 5,000倍 2,000倍	スカウトフロアブル 又はエクシレルSE	3,000倍 2,500倍
収穫前 【晩生種】 7月上旬 (500リットル)	アミスター10フロアブル 又はナリアWDG	1,000倍 2,000倍	スカウトフロアブル 又はエクシレルSE 又はエクシレルSE 又はテッパン液剤 又はスピノシン剤※	3,000倍 4,000倍 2,500倍 2,000倍 10,000倍

※スピノシン剤：ディアナWDG、デリゲートWDG

注) 1 満開35日後頃に、紅さやかなどの早生種に散布する場合、収穫前日数に注意して薬剤を選択する。
 2 カメムシ類対策では、満開35日後に発生がみられた場合は、テルスターフロアブルを選択する。
 3 収穫前にアウトウォッシュジョウバエ対策でスカウトフロアブルを使用するとカメムシ類防除剤は必要ない。
 4 アンビルフロアブル、オンリーワンフロアブル、インダーフロアブルは、薬剤耐性の懸念があるので連続使用しない。
 5 アミスター10フロアブル、ファンタジスタ顆粒水和剤、ナリアWDGは、薬剤耐性の懸念があるので、合わせて年2回以内の使用とする。ただし、アミスター10フロアブルとファンタジスタ顆粒水和剤は連続使用しない。

4. 収穫

収穫は満開日からの日数が目安になるが、天候によっては早まることもあるので、品種の特性（着色、大きさ、形状、食味など）を重視し、成熟したものから順次、数回にわたって行う。

■ 各品種の収穫期の目安

品 種	満開日から 収穫日までの日数
紅さやか	40～50日
佐藤錦	50～55日
ジュノハート	55～60日
紅秀峰	60～70日
サミット	60～65日
南陽	60～65日

野菜

トマト

こまめな温度管理や草勢に応じた肥培管理、適期防除を行いましょよう！

1. 温度管理

屋間の好天時は高温障害が発生しないよう、サイド換気や肩換気などで生長点から上の部分を換気する。気温が低い日や夜間はサイドを閉め、保温に努めるが、最低気温が14℃以上になれば、夜間もサイドを開放する。

3. かん水・追肥

本格的なかん水・追肥は、1本仕立て苗は3段花房の開花始めから、2本仕立て苗は2段花房の開花始めから行う。
 かん水量は1株当たり1.5リットルを基準とし、28℃以上の気温が予想される日は1株当たり2リットルとする。30℃以上の高温が予想される日は、昼から午後2時頃までに1株当たり1リットルを追加かん水する。
 2本仕立て苗の場合、1株当たりのかん水量は1本仕立て苗の2倍量とする。
 かん水の間隔は天候状態をみながら、毎日～2日おきで調整する。
 1回当たりの追肥量は、窒素成分0.5kg / 10a以内とする。10日間の窒素成分の合計は1.5～2.5kg / 10aを目安とするが、天候状態や草勢に応じて調整する。

〈かん水と追肥量の目安〉			()は2本仕立て苗	
月	旬	かん水量 / 1株当	かん水間隔	10日間の窒素成分合計
6	上	1.5ℓ (3.0ℓ)	1～2日おき	1.5～2.0kg / 10a
	中～下	1.5～2.0ℓ (3.0～4.0ℓ)	毎日～1日おき	2.0～2.5kg / 10a

※りんか409はかん水量は1割程度多くする。

4. 摘果

摘果時期と着果数は1段花房の着果節位で変える。着果節位が5～6節の上の場合は2段開花始めに2果、7・8節の上の場合は3段開花直前に3果となるよう摘果する。
 りんか409は着果性がよいため、成らせすぎに注意する。

6. 病害虫防除

灰色かび病が発生しやすくなるので、葉先枯れ部分や花カスをできるだけ取り除き、ハウス内の換気や薬剤による予防散布を行う。
 アザミウマ類の発生が多くなるので、ほ場周辺の除草を行い、発生状況に応じて早期に防除を行う。
 トマトキバガの発生に注意し、葉や果実に食害が認められた場合、速やかに防除を行う。
 りんか409は青枯病に耐病性がいないため、わき芽かき、摘葉、誘引作業等の傷口から感染しないように注意し、ハサミ等の使用の際はこまめに消毒しながら作業を行う。

【農業の相談はこちらへ】

農業についての各種相談を受け付けております。受付した内容は即時対応いたしますので、気軽にご相談ください。
鶴田町農業支援センター 午前9時から午後5時 ☎22-2111（役場農業振興課）

「農事普及だより」及び「他の農作物生産情報等」は町ホームページにも掲載しております

ここから見てね!!

「農事普及だより」

(他の農作物生産情報等画)

URL http://www.town.tsuruta.lg.jp/kurashi/kurashi-nougyou/post-117.html